



異議あり!「住民を切り捨て、戦争に向かう時代」

今、沖縄辺野古新基地建設が強行され、福島原発事故被災者の支援がうち切られ、放射能汚染を過去のものとしようとしています。さらに、東海第二原発をはじめ多くの原発が再稼働されようとしています。これらに共通するのは政府による民意の切り捨てと、富と権力の集中とそこから切り捨てられる人々との分断に他なりません。こうした現政権の生活破壊と集団自衛権行使した戦争準備に對して、全国各地で多くの市民が異議申し立ての声をあげています。

自発的に声をあげたベトナム反戦市民運動

ベトナム反戦市民運動は「ベトナム戦争反対、アメリカはベトナムから出て行け、日本はベトナム戦争に加担するな、ベトナムはベトナム人の手に!」を合言葉に、全国あちらこちらで自発的に市民、学生、労働者、学者が立ち上がった、市民が主役の水平的な運動でした。

「知恵のあるものは知恵を、時間のあるものは時間を、お金のあるものはお金を」出しあい、言い出しっぺが先頭に立ち、ティーチイン(teach in／話し合い)、シットイン(sit in／座り込み)、ダイイン(die in／寝ころび)など、多様な方法で非暴力不服従の運動を展開しました。あるものは国境の壁を越えアメリカ脱走兵を援助し、あるものは地方議員になり、あるものは地域のたまり場を作り、あるものは歌声で戦争反対を訴えました。

未来のために集うこと

～多摩平和イベント実行委員会10周年記念冊子(2016年)より～

平和について考える、というと、むずかしく聞こえますか。たとえば、こんな風に考えてみるとどうでしょう。自分の暮らすまちの未来を考えてみる。え、それって「まちづくり」じゃないの? と思うかもしれません。まちづくりも、未来を考える大切な一側面ですよね。でも、自分の暮らすまちの未来、例えば10年後を考えるという時、そのまちが戦争で滅んでいるイメージを思い浮かべるのは、その10年間が平和であり、あるいは、環境破壊や災害で壊滅していないという前提があるからですね。

今の時代、「未来」を考えるにあたって、そこで暮らす人々が笑顔でいるとするならば、「差別がない、深刻な環境問題にさらされていない、食べ物がきちんとある、健康な生活ができる、多様な人が活発に活動している、災害への備えがある、将来への深刻な不安が少ない…」といったことを、きちんと考へる必要があると思います。「平和」というものは、きっと、そういう幅広いものを含んだ考え方なんですね。もちろん、「戦争がない」という意味での、分かりやすい「平和」も、その大事なひとつです。(神子島 健 平和イベント代表)

アメリカ軍は自由を引き裂いている。
私は加えられる罰など、世界大戦に至る危険に
比べれば、たいしたことではない。
私は訴えたい。
非暴力活動によって、
この巨大な戦争機械を変えようではないか。



写真:DVD『殺すな!』(ホーチミン市戦争証跡博物館へ日本の反戦市民運動の資料を贈る運動「殺すな!」制作委員会制作)より

[主催・連絡先] 多摩平和イベント実行委員会 tamaheiwa@gmail.com 090-2745-5036(加藤)